



<http://www.tendaitokyo.jp/>

私に保護司の話があつた時、深く考えずに気楽に返事をしてしまいました。履歴書の提出の前に身分照会等を経たのち、昭和四十八年に九段にある保護観察所の研修会に出席しました。そこで講義を受けているうちに、これは大変な仕事で自分には向かないと思いました。保護司は常に自分に厳しく生活し、保護司の仕事をしている時は特別公務員であり、責任の大変いボランティアだからです。敵前逃亡ではありませんが、無性に会場から出て行

様々なボランティアを通して社会に布教教化に努める僧侶が多い。今回は昭和四十八年以來、三十六年間保護司を続けるある住職より寄稿してもらつた。

きたくなつたのを今でも思
い出します。

社会を見つめて

保護司の活動

特に記憶に残っている少年の事例があります。A君は不登校と暴力事件を連続で起こし、少年院送致が決まりました。数カ月後、退院した少年の処遇について両親と相談し、時間が空いているときは我が家に来させることになりました。家

始しめし
した。

履されることを繰り返していました。しかし担当して二年ぐらいした頃、仕事を

時に室内と当時の外のことを思い出しながら、お酒が大変おいしかったもので

族の協力を得て魚釣りに行ったり、我が家で食事したり、寺が忙しい時は早くから手伝いに来てくれることもありました。手伝いはしつかりやつてくれたのですが、一歩外へでると仲間がいたりしてなかなかうまくいきません。仕事に就いても、夜遅ぎして翌朝帰宅する、解

解除に至ったのです。それから二年後のことでした。買い物中に家内が「お父さん、あの人A君じゃない?」と言うので見てみると、彼がニコニコしながら女の子と一緒に近づいてきて、「お久しうぶりです。彼女です」と紹介してくれました。立派な青年に成長していたのです。その免は家内に当時の少年のこ



次ページへ続く

しかしながら、このように優良解除になることばかりではありません。真面目な生活ができるつつあると思っていましたが、矢先に再犯の通知を貰うことや、突然所在不明になりあわてて監察所に連絡することもありました。

「寺院と保護司活動」

この間、家族を始め多くの人達の協力でこの仕事を続けてこられました。保護司は罪を犯した人の更生のために、社会的処遇の面で側面からお手伝いするのですが、なかなか満足のできる協力が出来て

現在天台宗東京教区には、約二十名の保護司がそれぞれ活動している。対象者（出所後、保護觀察中である意）とひとたび離れた実社会との隙間を埋めるこの役割には、これからも大きな期待が寄せられるであろう。

いないというジレンマを常に持っています。しかし、私が僧侶であった事が保護司活動を続ける助けになつたのではないかと、最近思うようになりました。職業的に対象者の家族から信頼を得やすいということや、傷害を起こした対象者の被害者への悔過（けいか）を促すこともできるからです。檀信徒への教化といったスタンスと何ら変わらないのではないのでしょうか。

しかし最近の日本では、なんと凄惨な事件が多いことか。そればかりではない。秋葉原の事件など、もはや地獄絵図は現実のものとなつてしまつた。

現代社会と仏教

「縁を調べる」

ものである

先日、かつて東京と埼玉で起きた連続幼女誘拐殺人犯の死刑執行が報道された。あの事件が約二十年前。この世に生を稟けたときは、やさしい仏の子になりうる種も彼には具わっていなかった。しかし彼を育てた「縁」はその種を腐らせ、異常殺人鬼の種を萌すものしかなかつた。すでに彼が生まれ

た頃、この国にはそのとんでもない「悪縁」がじわじわと蔓延しはじめていたのである。自己中心的な社会環境、家庭の崩壊。表現の自由を常套句に、わいせつ図画の氾濫、暴力、殺人をテーマにした漫画、ゲーム、テレビ番組、そして有害サイト・・・。やりたい放題ではないか。

いまのうちに「縁」を調べない限り、もっと凄惨で酷い事件は起ころり続けるだろう。犯罪が裁かれるのは当然だが、決して一朝一夕の気まぐれ的な事件で片付く問題ではない。長い間「悪縁」を放置し続けた結果であるとみるべきではなかろうか。なぜこれら「悪縁」を放置しておくのか。被害者たちの声なき声がそのことを教えてくれていよいよ気気がしてならない。

まずは家庭から。そして子供のうちから。少しでも「縁」を調べていくなかに、微かではあるが希望の光がほの見えてくるだろう。



十一面觀音像

口にあつたが、その後田安門へ、さらに天和三年（一六八三）に現在の地へと移された。本尊は二メートル余りの薬師如来で、空襲で寺は全焼したが、奇跡的にお顔・薬壺・手首は焼け残り、お顔をそのまま使って復元された金色に輝くお像である。

山門の正面には聖天さま（大聖歓喜天）がお祀りされている。靈験あらたかな聖天さまに油を灌ぐ浴油供という独特的の供養法によつて現在も供養がされている。

聖天堂には他にも元三大師、大黒天、虚空藏菩薩、毘沙門天などの諸尊が祀られており、心願成就、家内安全、商売繁盛など日々祈祷がなされている。

神楽坂聖天 安養寺

大江戸線牛込神楽坂駅 A3 出口を右に行き、神楽坂上交差点の角に安養寺がある。

開基は慈覺大師円仁。かつては江戸城内平川

この寺の聖天さまはかつて

天台座主が拝まれていた由緒

正しい靈像である。その聖天

さまの後ろには、江戸三十三

觀音第十六番札所のご本尊で

ある十一面觀音がお祀りされ

ている。十一面觀音は聖天さ

まの本地仏（本体）であり、

その十一の尊顔が示す如く、

我々のあらゆる願いを隨時隨

所に応じた方法でお救い下さ

る慈悲深い仏さまである。こ

の尊像は、現住職が比叡山に

て回峰行を修行されたときに

賜つたものである。

聖天堂には他にも元三大

師、大黒天、虚空藏菩薩、毘

沙門天などの諸尊が祀られて

おり、心願成就、家内安全、

商売繁盛など日々祈祷がなさ

れている。

正蔵院は室町末期（一四五八年頃）圓觀律師が開山、太

田道灌の創建である。もとは

豊島郡千代田村梅林坂（現・

皇居東御苑内）にあり、のち

に田安門に移され、さらに元

和二年（一六一六）に現在の

地へ移された。本尊は一寸八

分の小さな小さな薬師如來

（伝教大師御作。秘仏として

安置していたが、戦災で焼失。

また、明治四十四年に当寺

に合併された同町の善養寺の

本尊の閻魔大王像を堂内に奉

大衆に親しまれた。

現在の閻魔大王像は、後に

寄贈された迫力のあるお像で

現在の閻魔大王像は、後に

お祀りされている。

また、明治四十四年に当寺

に合併された同町の善養寺の

本尊の閻魔大王像を堂内に奉

大衆に親しまれた。

現在の閻魔大王像は、後に

お祀りされている。

また、明治四十四年に当寺

に合併された同町の善養寺の

本尊の閻魔大王像を堂内に奉